

学校図書館を活用した「読み」を鍛える拠点校事業 実践記録

研究主題

話し合い、考え、表現できる生徒の育成
～語彙を増やし、読解力を高める活動を通して～

中土佐町立大野見中学校

実践概要

本校の生徒は、小規模校であるため仲間同士で多様な考え方を話し合ったり広げ合ったりすることや、多人数の中で自分の考えを堂々と表現したりすることが課題である。どのような状況においても適切に考え、判断し、豊かに人生を切り開いていく力を付けるために、各教科において、学習の基礎となる語彙を増やし、読解力を高められるよう、言語活動の充実を図ることに取り組んだ。方法として、図書館資料の活用を重点に置き、授業研究に取り組んだ。全教科と総合的な学習の時間で公開授業を行い、研究協議を重ねながら授業改善に努めた。また、課題探究型の授業形態を基本とし、生徒は文章から必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめ、仲間と交流しながら新聞の形式でのまとめを行った。また、読書紹介活動でスピーチを行うことにより語彙も増え、表現力も高まりつつある。

キーワード：言語活動の充実、図書館資料の活用、課題探究型の授業の流れの共通確認

1. 研究仮説

語彙を増やし、読解力の向上を図ることが、より豊かな表現力を身に付けることにつながり、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、学力の向上につながるのではないかと考える。

2. 実践方法

- (1) 図書館資料や新聞等の計画的な活用推進
 - ① 学校図書館教育の計画の見直し
 - ② 各種コンクールへの応募や新聞社との連携
- (2) 読書活動の推進
 - ① 読書生活充実のための取組
 - ② 委員会活動を通しての生徒の主体的活動
- (3) 授業研究
 - ① 図書館資料や新聞等を活用した授業
 - ② 授業実践から

3. 実践内容

- (1) 図書館資料や新聞等の計画的な活用推進
 - ① 学校図書館教育の計画の見直し
「図書館年間活動計画」について、学校図書館行事や図書館運営・図書館文化委員会活動の取組の見直しを行った。また、学年ごとの「単元配列表」を作成し、図書館の活用を意識して行うようにした。
 - ア 新入生オリエンテーション
学校図書館の開閉は図書館文化委員会が行い、始業前から放課後まで生徒は自由に利用できる。本の貸し借りもPCの図書システムで各自が行うことについて、新入生に説明した。
図書館でのマナーや本の配置など基本的な使用方法を生徒全員が理解して図書館活用の推進を図ることを目的とした。

イ 選書会

図書購入に生徒の希望を取り入れられるよう、年度当初、地域の書店から新刊書や学習に役立つ本をそろえてもらった。1時間ゆったりと時間を取り選ぶことができるようにした。

ウ 小学校への本の読み聞かせ

図書文化委員会が中心となり、学期に一度小学校へ絵本の読み聞かせボランティアを行った。（写真1）



写真1 小学校での本の読み聞かせ

- ② 各種コンクールへの応募や新聞社との連携
 - ア 新聞感想文コンクール

生きた教材として新聞の情報を読み、考えたことを自分の言葉で伝えること、また、新聞を読むことを通して、活字に親しみ社会や地域への関心を高め、友達や家族とのコミュニケーション力を深めることを目的に行った。ワークシートを用い、文章構成を考えさせた。

・興味のある記事を選ぶ

心に残ったこと、印象に残ったこと、興味や疑問をもったこと、心に残った理由、なぜどことなく心に残ったのか、読んで何を感じたか、そこから何に気付き学んだか。

- ・自分の意見、考えを短い言葉で書く
- ・意見を支える根拠を書く

記事の言葉を挙げる。自分の知識や体験と関連付けると説得力が増す。

・今後自分の生き方にどう活かしていきたいか
イ 新聞づくり

思考力や表現力の育成を目的として各教科の学習のまとめを新聞の形式で表現し、情報活用能力の育成に取り組んだ。また、学校紹介を掲載した生徒会新聞や総合的な学習の時間のまとめ新聞などに取り組んだ。作成した新聞は地域の方の感想もいただき、高知県教育委員会主催の「学校新聞づくりコンクール」に出品した。

ウ 高知新聞社との連携

新聞づくりの方法について、高知新聞社読もっかNIE編集部に「新聞づくりを楽しもう」という出前授業をしていただいた。効果的な紙面の作り方やインタビューの仕方など情報収集について学んだ。

(2) 読書活動の推進

①読書生活充実のための取組

ア 読書紹介活動

○ ビブリオバトル (写真2)

1学期の後半、夏休み前に全校生徒参加で行った。一人一人持ち時間以内に一冊の本を紹介し、一番読みたいと思う本に投票、得票数の多かった本をチャンプ本とするゲームを通して、友達理解や夏休み読書の本の選定に役立てた。注意点として、「感動します」「おもしろいです」という言葉は使わずに、読んでみたいと思わせること。また、本を手を持って、感情豊かに話すこと。聞き手は、発表者に体を向け、うなずいたりして、発表しやすい雰囲気づくりを行うことなどを事前に示した。



写真2 全校ビブリオバトル

イ 朝読書の取組

毎朝の十分間を、落ち着いて学校生活がスタートできる環境づくりや読書の習慣化を目的に、朝読書として生徒と教員で取り組んでいる。本を用意できない生徒のために学級文庫を設置し、図書委員が図書館からジャンルなど偏りがないように配慮して、適宜入れ替えを行っている。生徒は、熱心に読んでいるが友達同士の交流は少ない。そのため、月ごとに読書感想カードを壁に掲示してお互い見合えるよう取り組んだ。(写真3)



写真3 読書紹介カード「となりの朝読書」

②委員会活動を通しての生徒の主体的活動

ア 一分間読書スピーチ

生徒集会で、4人程度の縦割り班ごとに、一人一分間の持ち時間で本の紹介スピーチを行った。

イ 読書標語の募集

全校生徒に読書標語づくりを呼び掛け、優秀作品を集会で紹介した。

(3) 授業研究

①図書館資料や新聞等を活用した授業

全教科と総合的な学習の時間で、図書館資料や新聞等を活用した公開授業を行い、課題探究型の授業づくりについて研究を進めた。

〈課題探究的な授業づくりの授業の流れ〉

・課題提示

日常生活と関連した汎用的な課題提示を行い、生徒の主体性を促す。

・自力解決

課題解決のために情報を収集・解釈・整理・吟味し、情報活用能力を身に付けさせる。情報を基に自分の考えをもち、根拠を示して相手に伝える言語能力を身に付ける。

・集団解決

グループ活動を取り入れ、友達と対話することを通して考えを広げたり深めたりする。疑問や誤答を生かしたり、教師による問い返しを行ったりして、考えを練り上げる工夫をする。

他者の意見を認めたり深めたりする他に、場合によっては多面的・多角的に捉えられるようにする。

・まとめ

学習課題との整合性をとり、できるだけ生徒の言葉でまとめる。

・振り返り

本時の生徒の学習を見取ることのできるものであると考え、2・3行の文章で終わる短いものでなく、生徒がたくさん振り返りたくなる授業を目指す。

「聞く・話し合う」を重点化し、教員・生徒ともに全教科等で意識できるよう、3段階のステップで文章化して示した。(写真4)

・2、3行の文章で終わるような短いものでなく、生徒がたくさん取り返してほしいような授業を目指す。

③言語表現するための3STEP

	レベル1	レベル2	レベル3
聞く	話し手の事実と主観とを聞き分け、その内容を吟味して、的確な判断しながら聞く。	話し手の考えとその根拠の関連性を吟味し、論証の仕方が妥当かどうかを考えながら聞く。	複雑な話や複数の話を聞き取るときにはメモを取り、話し手の考えとその根拠を受け、質問や反論を考えながら聞く。
話し合う	考えたことを全員が発言できるように、開放的な雰囲気を作るために、うなずいたりして相手の話をまず受け止めるようにする。	問題解決のためには、一つ一つの論点に優先順位をつけて、大きな論点からより細かい論点へと議論が進むように、論点を整理する。	自分の考えとは異なる意見にも、共通点を見つけようとして、相手の意見によいところや納得のいくところがあれば、考えを変える柔軟さを持つたりして、お互いの考えを生かす合点にする。

9

写真4 言語表現するための3STEP

② 授業実践から

第2学年国語科「枕草子」

・研究主題との関連

「話し合い、考え、表現できる生徒の育成～語彙を増やし、読解力を高める活動を通して～」に向けて、この単元では、日本の3大随筆「枕草子」から、筆者のものの見方や考え、表現の仕方を捉え、その書きぶりに倣って、生徒自身が自分の身の回りの自然や事柄に目を向け、自分が見聞きしたことや体験したことをもとに表現を工夫して、自分流「春は〇〇」という短い随筆を書くという言語活動を設定した。

・育成を目指す資質・能力

〈情報活用能力〉古典の随筆から優れたものの見方や表現の仕方を読み取り、情報を捉える力を育てる。

〈言語能力〉学校図書館資料を活用し、自分の考えを表現する適切な言葉を探すことにより、語彙力を高める。

・単元について

まず、古典の随筆の特徴を理解し、「枕草子」第一段の内容を大まかに捉えさせた。第一段を参考にしながら、見聞きしたことや体験したことをもとに、表現を工夫して自分流「春は〇〇」という短い随筆を書くことを伝え、下書きの随筆を書いてくることを家庭学習とした。

次に、「九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の」及び、第一段「春はあけぼの」から、筆者のものの見方や考え・表現の仕方を捉え、自分の文章を推敲するためのポイントを見つけた。

最後に、これまでに学んだ古人の随筆の優れた書きぶりから、いくつかのポイントを参考にして、下書きの自分流「春は〇〇」を推敲し、友達のアドバイスをもとによりよく書き直させる指導を行った。(写真5)

・授業の振り返りの内容
清少納言の「枕草子」の書きぶりを倣って自分流「春は〇〇」という短い随筆を書くことを通して、作者の優れたものの見方や考え方を知ることができた。自分も身の回りの自然を見直すきっかけとなった。今後も四季の移り変わりに目を向けていきたい。
対句や体言止めなど効果的な表現の仕方を学び、自分の文章にも取り入れて読み手に伝わりやすい文章を書きたいと思う。



写真5 2年生国語授業風景

・「書くこと」における生徒の変容

「枕草子」の学習後、「書くこと」についての授業「いきいきと描き出そう・短歌から始まる物語」で、短歌から想像を膨らませ、情景や心情を生き生きと表すように、描写を工夫して物語を書くという言語活動を行った。

・生徒の作った物語からの抜粋

○教科書から選んだ短歌『ごめんね』とその一言が言えなくて、帰り支度の君を見送る
○生徒の作品「(中略)自分が悪かった、なんて分かっているのに、美香を前にすると言葉の出せない自分が情けなくて、教室から空を見上げる。どんよりと重たい雲が一面に広がっていた。『どうしたらいいの。』無意識に漏れたその声は誰にも届かず、灰色の空に吸い込まれた。」

このように、登場人物の心情を情景描写によって表現できた。他の生徒の文章にも表現の仕方を工夫して、自分の考えを読み手に分かりやすく伝えようとする意図が見られた。原稿用紙6枚もの物語を作った生徒もおり、友達との物語を興味深く聞き合い交流することができた。

4. 成果と課題

2年間の指定を受け、語彙を増やし、読解力を高めるために様々な取組を行ってきた。

(1) 授業評価アンケート及び授業力チェックシートより

授業評価アンケートでは、肯定評価達成目標80%において、生徒+18.4%、教師+17.8%であった。

「授業力チェックシート」（生徒）を見ると、「学習のまとめを自分の言葉で表現できる」が、4段階中、取組前3.6、取組後3.5、「図書館資料を用いて調べたり話し合ったりする授業を行った」が、取組前3.8、取組後3.8であった。生徒の肯定評価はプラスだが、話し合い活動を充実させるため、自分の考えをもたせ表現できる語彙力を身に付けさせたい。

「授業力チェックシート」（教師）は、「図書館資料の活用」が取組前と比べて4段階中+1.3となり、課題探究的な授業の中で情報収集として図書館資料の活用はできている。しかし、「振り返りの時間を設けること」は3.0と課題として残った。（図1）タイムマネジメントを行い、振り返りの時間を設けて、生徒の振り返りを生かした授業づくりに取り組んでいく必要がある。

※授業力チェックシートの結果
(指定2年間にわたっての比較)

H30年度当初	教材研究	授業構成	指導技術	生徒理解
生徒	3.8	3.7	3.8	3.9
教師	2.7	2.8	2.6	3.2

↓

R元年度年度末	教材研究	授業構成	指導技術	生徒理解
生徒	3.5	3.5	3.8	3.6
教師	3.5	3.4	3.5	3.5

図1 授業力チェックシート

(2) 語彙力及び表現力の育成

図書の一人月ごとの平均貸出冊数は、取組1年目1.3冊、取組2年目2.2冊であった。数値的には大きな変化は見られないが、行事の振り返りを書き留める作文ノートや新聞づくり・読書ノート等を書くことや、授業でのグループ活動やスピーチ等での話すことを通して、生徒の語彙は増え、表現力も少しずつ高まってきた。

(3) 学力調査の結果より

「全国学力・学習状況調査」では、読解力が必要な項目（記述式問題）において、県平均との比較は+11.5ポイントだった。3年生は、無解答率も0%であり、生徒の地道な取組の成果が見られる。

「高知県学力定着状況調査」では、読解力が必要な項目（記述式問題）において、県平均との比較1年生-1.6、2年生+37.0であった。1年生は県平均と比べて、マイナス評価であり、無解答率も、4.9%と課題が見られる。グループ学習による協働的な学びや個別の支援を更に継続していく必要がある。

以上のことから、今後も、文章を粘り強く読み必要な情報を捉え、自分の考えを形成できる生徒の育成を目指して、読解力を高める研究を進めていきたい。